競技成績の異なる東北地方大学男子バスケットボールチームの心理的特性について
— TSMI, MPIを中心として —

児玉　善廣*，本間　正行**，松尾　健治***，糸川　　圭*

1. はじめに

スポーツ選手の心理的特性は，身体的特性，技術的特性とともに，競技力を左右する重要な要因のひとつである。これまで心理的特性のうち，パーソナリティと競技力の関係を明らかにするには，パーソナリティの構造のおもに気質などの内的側面と，態度などの外的側面からアプローチされてきている。両者の関係は非常に密接であり，内的，外的両側面について同時にとらえることが有効である。

これまで内的な側面の測定にはEysenck[10]によって作成されたMPI（Maudsley Personality Inventory），外的な側面の測定には松田ら[7),8),9)]によって作成されたTSMI（Taikyo Sport Motivation Inventory）を使用して，フェンシング[13)]，卓球[11)]，フィールドホッケー[14)]，バレーボール[1)]，アメリカン・フットボール[12)]，サッカー[4)]，陸上競技[5),6)]，バスケットボール[2),3),15)]，の選手について検討がされている。

本研究で対象としているバスケットボール選手についての研究を概観すると，吉沢ら[15)]は，高校，大学，実業団の男女を対象に，所属カテゴリー，競技レベル，性差などの観点から検討している。それによれば，1）男女とも外向的なほうが優れた適性を示す傾向がみられた。2）男子では，競技レベルが高く，また経験年数が長い者では，外向的な者ほど優れた適性を示す傾向がみられたが，女子ではそのような傾向はみられなかった。3）男女とも神経症傾向の低い者のほうが優れた適性を示す傾向がみられた，と報告している。堀本ら[3)]は，高校，大学，実業団の男女を対象にガード，フォワード，センターのポジション別比較から，ガードがゲームのコントロール・タワーとしての役割を果たすべく，チーム・リーダー的存在として最も高い適性を示したが，逆にセンターは，下位尺度全てにおいて最も低い適性を示しており問題があると報告している。ところで，1チームの立場にたってみると，吉沢ら[15)]の指摘しているような適性が高い選手ばかりが集めれているわけではなく様々なパーソナリティの者が混在しているのが実状であり，効果的な指導やゲームの遂行のためには，関係するチームの心理的特性を明らかにしておくことが重要である。これまで特定のチームの心理的特性については，堀本ら[2)]が中国ジュニア女子世界選手権大会代表チーム，と日本ユニバーシアード代表女子チームを対象にTSMIを使用して比較しているが，競技力の高い中国チームのほうが，競技意欲も高いことを明らかにしている。しかし国を代表するチームの特性は参考にはなるが，身近な問題として必要なのは，直接自チームに対する地域に存在している関係チームの実態を知ることであろう。

*仙台大学，**弘前大学，***小湊小学校

そこで本研究では，東北地方の競技レベルの異なる大学男子バスケットボールチームについて，心理的特性の面でどのような違いがあるのかを，MPI と TSMI の結果を通して検討した。

2. 研究方法

＜対　　象＞

A大学男子バスケットボール部
選手11名（以下，A大）

S大学男子バスケットボール部
選手35名（以下，S大）

H大学男子バスケットボール部
選手20名（以下，H大）

＜競技経験年数の平均（標準偏差）＞

A大……10.7（1.7）年
S大……8.6（2.1）年
H大……9.1（4.0）年

＜競技成績　　平成２年度（1990年）＞

A大……東北学生選手権大会１位，東北大学総合体育大会１位，全日本学生選手権大会ベスト16。
S大……東北学生選手権大会４位，東北大学総合選手権大会ベスト８。
H大……東北大学総合選手権大会ベスト８。

＜調査時期＞

A大……平成２年12月６日。
S大……平成２年12月10日。
H大……平成２年11月22日。

＜調査内容＞

MPI（日本版）……生物学的基礎に立脚して，「外向性－内向性」，「神経症傾向」という独立した２次元について測定するテスト。

TSMI ……スポーツ競技に対して直接的な「やる気」や「意欲」などを17尺度で測定するテスト。

両テストとも強制速度法によって実施し，回収した。

3. 結果と考察

(1)　MPI について

A大，S大，H大各チームの MPI の向性（E）と神経症傾向（N）の得点分布を図１に，各チームの平均値と標準偏差を表１に示す。

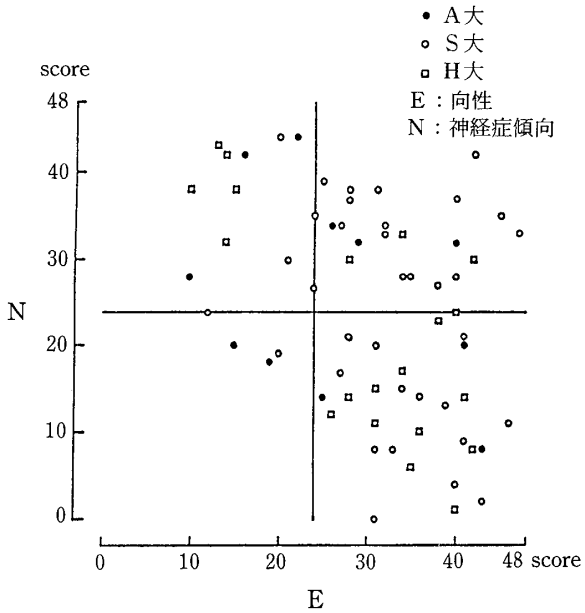

図１　A大、　S大、H大男子バスケットボール部員のＭＰＩ得点分布

向性の各チームの平均値を比較してみると，S大が32.7点で最も高く，次にH大29.6点，A大26.0点の順であった。一般男子大学生の平均値25.45と比較すると，S大，H大は外向性が高く，一般的にスポーツ選手は外向的であるといわれている従来の知見と一致するが，A大にはその傾向がみられなかった。また大学サッカー選手一軍の平均値32.21[4] と比較すると，競技特性を考慮する必要はあるが，A大は競技成績が高いわりに外向性が低いと思われる。３チーム平均値の間に統計的有意差はなかった。（F＝2.38，ｄｆ＝2/130）。

次に神経症傾向の各チームの平均値を比較してみると，A大が26.5点で最も高く，次にS大24.4点，H大22.1点の順であった。一般男子大

表1　A大，S大，H大のMPI, TSMIの各尺度の平均，標準偏差

	A 大		S 大		H 大		分散分布結果
TSMI (尺度名)	$\bar{X}$	SD	$\bar{X}$	SD	$\bar{X}$	SD	F
1，目標への挑戦	22.9	4.3	22.6	4.1	20.3	3.6	2.69
2，技術向上意欲	23.7	3.2	24.9	2.7	22.7	4.1	2.89
3，困難の克服	23.1	3.3	23.1	3.0	22.7	3.3	0.12
4，練習意欲	19.5	3.9	16.5	2.6	18.3	3.6	4.28 *
5，情緒安定性	19.8	5.9	19.2	3.6	17.6	3.8	1.42
6，精神的強靭さ	21.3	5.0	21.1	3.9	20.1	4.1	0.47
7，闘志	25.0	4.6	26.8	3.9	26.0	3.7	0.93
8，競技価値観	26.2	2.7	22.8	5.2	24.4	2.8	2.84
9，計画性	18.6	2.2	20.3	3.1	18.4	3.3	3.07
10，努力への因果帰属	26.5	2.3	24.1	4.4	24.5	4.1	1.44
11，知的興味	25.4	4.6	23.2	4.2	22.1	3.9	2.15
12，勝利志向性	21.9	4.1	21.3	5.5	16.9	3.9	6.26 ***
13，コーチ受容	26.7	2.4	22.1	3.8	19.2	3.4	16.86 ***
14，I A C	14.4	4.3	18.9	5.0	20.5	3.9	6.48 ***
15，失敗不安	19.7	5.6	18.1	4.4	18.6	5.9	0.42
16，緊張性不安	18.6	6.7	18.3	3.9	19.9	5.1	1.26
17，不節性	22.4	3.6	19.5	2.6	22.2	3.1	7.70 ***
MPI (E)	26.0	11.2	32.7	8.3	29.6	10.8	2.38
〃 (N)	26.5	11.5	24.4	12.3	22.1	12.9	0.02

* P<.05　　*** P<.005

学生の平均値23.36と比較するとS大，H大はほぼ同水準の値であるが，A大はやや高かった。また大学サッカー選手一軍の平均値17.69[4]と比較すると，競技特性を考慮する必要はあるが3チームともかなり神経症傾向が高い。3チーム平均値の間に統計的有意差はなかった。（F＝0.02，d f ＝2/130）。

吉沢ら[15]は，バスケットボール選手の心理的適性としては，外向性が高く，神経症傾向の低いことほど望ましいと報告しているが，3チームのうちで最も競技成績のよいA大では，外向性が低く神経症傾向が高いという本結果は，その報告と相入れないものである。また3チーム間の向性，神経症傾向に有意差がなかったことより，結果的に競技成績の差とパーソナリティの内的側面との関係は認められなかった。

(2)　TSMIについて

A大，S大，H大各チームのTSMIの尺度得点の平均値と標準偏差を表1に，平均値を9段階点で評価したプロフィールを図2に示す。

尺度得点の各チームの平均値を比較してみると，「練習意欲」の尺度が5％水準で，「勝利志向性」，「コーチ受容」，「IAC（コーチへの不

適応)」,「不節制」の4尺度が0.5%水準で統計的に有意差がみられた。それぞれの尺度について，大学間の有為差を調べるため，ライアン法によって比較した。それによると,「練習意欲」はA大＞S大（t＝2.73：P＜.05),「勝利志向性」はA大＞H大（t＝2.75：P＜.05)，S大＞H大（t＝3.24：P＜.05),「コーチ受容」はA大＞S大（t＝3.85：P＜.01)，A大＞H大（t＝5.75：P＜.01)，S大＞H大（t＝3.00：P＜.01),「IAC」はH大＞A大（t＝3.54：P＜.01)，S大＞A大（t＝2.83：P＜.01),「不節制」はH大＞S大（t＝3.33：P＜.01)，A大＞S大（t＝2.89：P＜.05）にそれぞれ有意差がみられた。

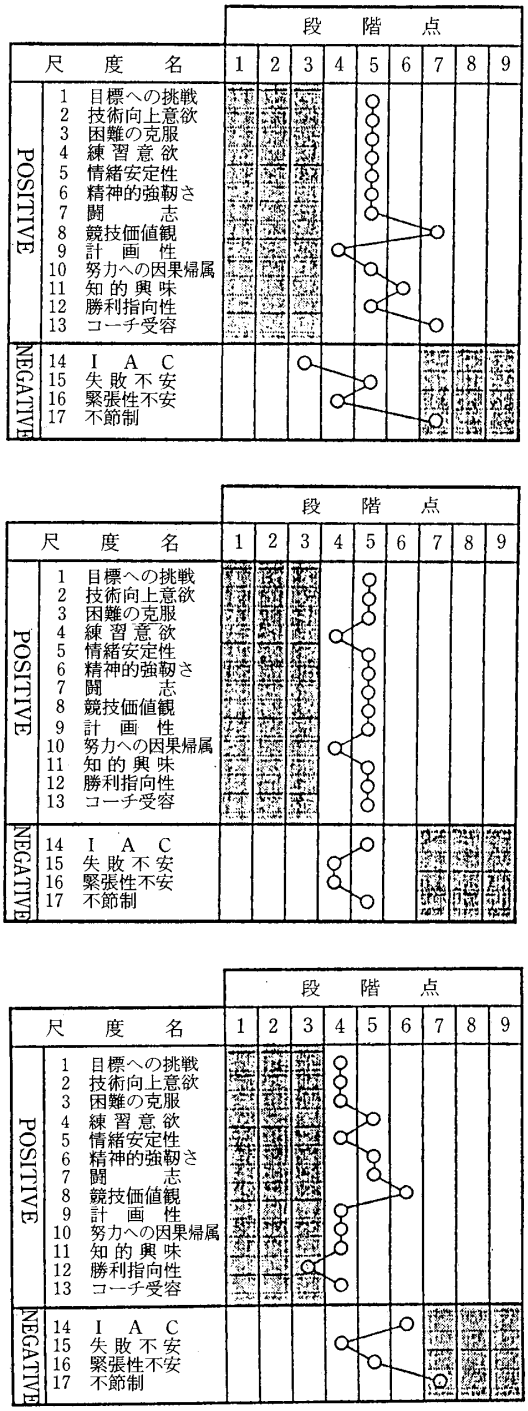

図2　A大、S大、H大男子バスケットボール部のTSMIプロフィール

つまりA大は3チームのなかで最も練習の意欲があり，試合で勝ちたいという想いが強く，コーチの言うことをよく聞いて活動をしている。しかし生活上不節制をしていることには問題があると思われる。次にS大は，H大に比べ勝利への志向性が強いものの，A大と比較すると「練習意欲」,「コーチ受容」が低く,「IAC」も高い。しかしA大，H大より節制した生活をしているようである。またH大は「勝利志向性」,「コーチ受容」がA大，S大と比較して低いうえ，ネガティブな側面の下位尺度である「IAC」はA大より高く，又「不節制」ではS大より高かった。

競技成績が高いチームほど競技意欲のポジティブな面が高く，ネガティブな面が低い傾向がみられることから，このことが競技成績に影響をおよぼす一因と思われる。

(3)　MPIとTSMIの関係について

A大，S大，H大のMPIの向性，神経症傾向と，TSMIの各尺度との相関を表2に示した。

向性とTSMIの下位尺度との有意な相関は，A大ではなかったかったが，S大では「知的興味」に正の相関が，H大では「情緒安定性」,「計画性」,「勝利志向性」に正の相関,「失敗不安」,「緊張性不安」に負の相関がみられた。吉沢ら[15]は，バスケットボール選手の向性とTSMIのポジティブな側面の下位尺度には正の相関が，ネガティブな側面の下位尺度には負の

表2　A大，S大，H大のTSMIとMPIの相関

TSMI（尺度名） ＼ MPI 2次元	A大		S大		H大	
	E	N	E	N	E	N
1，目標への挑戦	0.285	−0.347	0.029	−0.166	−0.301	0.195
2，技術向上意欲	0.278	−0.358	0.071	−0.101	0.133	−0.103
3，困難の克服	0.575	−0.354	0.225	−0.326	0.045	0.026
4，練習意欲	0.360	−0.024	0.086	−0.256	−0.200	0.327
5，情緒安定性	0.258	−0.557	−0.029	−0.184	0.528 *	−0.734***
6，精神的強靭	0.253	−0.592	0.135	−0.286	0.358	−0.479 *
7，闘志	0.127	−0.261	0.017	−0.178	0.159	−0.523 *
8，競技価値観	0.509	0.172	0.042	−0.350 *	−0.071	0.055
9，計画性	0.219	−0.249	0.062	−0.079	0.527 *	−0.325
10，努力への因果帰属	0.016	0.546	−0.073	−0.323	−0.095	0.035
11，知的興味	0.345	0.255	0.345 *	−0.319	0.417	−0.253
12，勝利志向性	−0.159	0.199	−0.113	−0.144	0.498 *	−0.568 **
13，コーチ受容	0.022	−0.131	0.108	−0.368 *	−0.109	−0.068
14，IAC	0.218	−0.122	−0.117	0.519***	0.055	0.195
15，失敗不安	0.233	0.270	−0.275	0.334	−0.590 **	0.789***
16，緊張性不安	−0.001	0.291	−0.252	0.385 *	−0.476 *	0.630***
17，不節性	−0.027	0.427	0.035	0.430 *	−0.187	−0.028

* P＜.05　** P＜.01　*** P＜.005

相関がそれぞれみられ，その結果，外向的な者のほうがバスケットボール選手として適していると考えられ，そのうえ高校生より大学生，大学生より社会人のほうがこの傾向が高いことを報告している。

しかし本結果では，3チームのうち最も競技成績の低いH大にその傾向がみられるが，A大，S大にはみられなかった。入学制度において推薦制を設けているA大，S大では特に向性が選抜の基準の中心となっているわけではなく，むしろ形態や運動能力の面から適した選手が主に選ばれている傾向を示すことなどが考えられるであろう。前述したTSMIの結果によると競技意欲は高いので，向性の面では問題があるとしても，指導や選手の意識の持ち方次第で競技意欲を補うことができるものと思われる。一方のH大は，競技成績による推薦入学などはなく，部員は大学入学後に個人の自由意志によってクラブに参加している傾向になるために，分布が一般的な状態となったと考えられる。

次に神経症傾向とTSMIの下位尺度との有意な相関は，A大ではなかったが，S大では「競技価値観」，「コーチ受容」に負の相関，「IAC」，「緊張性不安」，「不節制」に正の相関が，H大では「情緒安定性」，「精神的強靭さ」，「闘志」，「勝利志向性」に負の相関，「失敗不安」，「緊張性不安」に正の相関がみられた。吉沢ら[15]は，神経症傾向とTSMIのポジティブな側面の下位尺度に負の相関，ネガティブな側面の下位尺度に正の相関がみられ，神経症傾向

が高くなるほど「失敗不安」,「緊張性不安」が高くなって，神経症傾向の低い者の方がバスケットボール選手として適していると報告している。S大，H大はその傾向がうかがえるが，競技成績の高いA大に有意な相関がみられる下位尺度がなかったのは，向性の場合と同様に指導者や選手の意識の持ち方によることも考えられるが，その点については，他の2チームと相対的にみると，技術的な面や経験数，及び選手環境などの差が，少なからず影響している要因の1つと考えられる。

4. ま と め

本研究では，東北地方の大学男子バスケットボールチームのうち，競技成績の異なる3チームを対象に，各チームの心理的特性についてMPI，TSMI，MPIとTSMIの関係の比較から検討した。

その結果を要約すると,以下のとおりである。

(1) MPIの向性，神経症傾向について3チーム間に有意な差はみられなかった。

(2) TSMIは，競技成績が高いA大，S大，H大の順に競技意欲のポジティブな側面の下位尺度得点が高く，ネガティブな側面の下位尺度得点が高かった。

(3) MPIの向性とTSMIについて有意な相関が認められた下位尺度は，競技成績が最も高いA大にはなく，次のS大では1尺度のみであった。しかし，競技成績が最も低いH大では5尺度にみられた。

(4) MPIの神経症傾向とTSMIについて有意な相関がみられた下位尺度は，競技成績が最も高いA大にはなかったが，S大では5尺度，H大では6尺度にみられた。

参 考 文 献

(1) 遠藤俊郎，朽堀申二，豊田博，福原祐三，都沢凡夫，上田実「バレーボール選手の心理的適性に関する研究～性格特性，競技意欲，競争不安に着目して～」日本体育学会第36回大会号，p．590，1985.

(2) 堀本宏，岡沢祥訓，吉沢洋二，猪俣公宏「中国ジュニアー女子世界選手権大会代表チームと日本ユニバシアード代表バスケットボール選手のTSMIの特徴」スポーツ心理学研究，12－1，p．58－60，1985.

(3) 堀本宏，吉沢洋二，岡沢祥訓，猪俣公宏「ポジション別にみたバスケットボール選手の心理的適性に関する研究」スポーツ心理学研究，14－1，p.104－109，1987.

(4) 加藤久，上田雅夫「MPIによるサッカー選手のパーソナリティ――競技レベルとパーソナリティ・テストの得点との関連について――」日本体育学会第32回大会号，p．636，1981.

(5) 久保玄次，加賀秀夫「愛媛県代表国体出場選手における競技種目類型及び競技成績とTSMIの得点との関係」スポーツ心理学研究，14－1，p.100－109，1987.

(6) 久保玄次，兵頭寛，加賀秀夫「TSMIによる愛媛県ジュニア選抜陸上競技選手の3ケ年の追跡」スポーツ心理学研究，11－1，p.63－65，1984.

(7) 松田岩男，猪俣公宏，落合優，加賀秀夫，下山剛，杉原隆，藤田厚，伊藤静夫「昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告№Ⅳスポーツ選手の心理的適性に関する研究――第1報．第2報――」日本体育協会，1980.

(8) 松田岩男，猪俣公宏，落合優，加賀秀夫，下山剛，杉原隆，藤田厚，伊藤静夫「昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告№Ⅲスポーツ選手の心理的適性に関する研究――第3報――」日本体育協会，1981.

(9) 松田岩男，猪俣公宏，落合優，加賀秀夫，下山剛，杉原隆，藤田厚，伊藤静夫「昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告№Ⅵスポーツ選手の心理的適性に関する研究――第4報――」日本体育協会，1982.

(10) MPI研究会編，新性格検査法，誠信書房，p．259，1977.

(11) 岡沢祥訓，猪俣公宏「トップ・レベルの卓球選手の心理的適性に関する研究」総合保健体育科学，6－1，p．81－89，1983.

(12) 山本光二郎，竹村昭，岡沢祥訓「American Football 選手の心理的適性（1）—— TSMI，MPI に関して——」日本体育学会第39回大会号 A，p.153，1988.
(13) 吉沢洋二，岡沢祥訓「女子フェンシング選手の心理的適性について——競技レベルからみた TSMI，MPI，精神力，あがりの特徴について——」スポーツ心理学研究，13－1，p.63－65，1986.
(14) 吉沢洋二，岡沢祥訓，猪俣公宏「ホッケーの女子トップ・プレーヤーの心理的適性について」総合保健体育科学，6－1，p.113－121，1983.
(15) 吉沢洋二，堀本宏，岡沢祥訓，猪俣公宏「Dual Construction Personality Model からみたバスケットボール選手の心理的適性に関する研究」スポーツ心理学研究，14－1，p.29－35，1987.

The Psychological Characteristics of Male Basketball Players through TSMI and MPI Test.

Yosihiro KODAMA, Masayuki HONMA, Kenji MATSUO, Kei ITOKAWA

The objective of this study was to compare psychological characteristics of male basketball players belonging to three teams with different competitive abilities. Players from these three teams were given MPI and TSMI tests to investigate their psychological traits.

The result of this study was as follows:

1) According to MPI test alone, players from three teams did not show any significant differences in their psychological make-up.
2) TSMI test showed that team 'A' with the best competitive record had scored higest number in positive factor area while team 'H' with worst record scoring higest number in negative factor areas.
3) Comparison of personality traits from MPI and TSMI tests resulted in team 'A' scoring no negative points in 17 categories of the test. Team 'S' with second best record scored negative points in one category and teams 'H' with worst record scoring negative points in 5 categories.
4) Comparison of two tests regarding emotional stability showed team 'A' not scoring any negative points in any of the categories while team 'S' scoring negative points in 5 categories and team 'H' scoring negative points in 6 categories.